島谷用水（いがわ小径）（郡上市）

曽代用水（美濃市）

瀬戸川用水（飛騨市）

ぎふ

歴史的土地改良施設マップ

清流の国ぎふ

長良川風景（郡上市）

飛騨
中濃
岐阜
西濃
東濃

ミナモ

岐阜県では、土地改良施設や地域資源の保全に対する取り組みを「ぎふ水土里のプロジェクト」として展開しています。

「水土里」は、「水」清い流れの農業用水、「土」緑豊かな農地、「里」豊かな自然や農村風景を表現しています。

岐阜県の自然と風土を「飛山濃水」と言います。

飛山とは飛騨山岳部と飛騨高原を言い、濃水とは濃尾平野の平坦部を言うもので、極めて変化に富んだ農業が営まれてきました。

この中には、地域において恵まれない自然条件を克服し工夫を凝らし、今日の農業基盤を築いてきた古い歴史を持っています。

また、懐かしい「日本の原風景」である棚田もあり、美しい風景が見られるとともに、祖先の叡智を守り伝えています。

これら岐阜県の「水土里」を美しい姿のまま未来へ残すための取り組みの一つとして、建設から50年程度を経過したものや、歴史を秘めたもの、現在も地域振興として活用されている土地改良施設をまとめたマップを作成しました。

お問い合わせ先

岐阜圏域	岐阜農林事務所	岐阜市薮田南5-14-53	058-214-6973
西濃圏域	西濃農林事務所	大垣市江崎町422-3	0584-73-1111　内線397
	揖斐農林事務所	揖斐郡揖斐川町上南方1-1	0585-23-1111　内線431
中濃圏域	中濃農林事務所	美濃市生櫛1612-2	0575-33-4011　内線227
	郡上農林事務所	郡上市八幡町初音1727-2	0575-67-1111　内線218
	可茂農林事務所	美濃加茂市古井町下古井2610-1	0574-25-3111　内線415
東濃圏域	東濃農林事務所	多治見市上野町5-68-1	0572-23-1111　内線285
	恵那農林事務所	恵那市長島町正家後田1067-71	0573-26-1111　内線293
飛騨圏域	下呂農林事務所	下呂市萩原町羽根2605-1	0576-52-3111　内線210
	飛騨農林事務所	高山市上岡本町7-468	0577-33-1111　内線341

発行元

岐阜県農政部農村振興課
岐阜市薮田南2-1-1
TEL 058-272-1111（内線3173）

岐阜圏域

おがせいけ
1 苧ケ瀬池

【所　在】各務原市各務おがせ町
【築　造】宝亀年間（770～780年）
【管理者】各務原市

苧ヶ瀬池は、奈良時代には南北に22km、東西に8km程の大きさがあったと伝えられています。

農業用のため池ですが、「龍神伝説」の民話が伝わるなど古くから地域の信仰も厚く、神秘的な池としても知られています。

周囲約2kmの池のほとりには、池の主である竜をまつった八大竜王総本殿などがあり、地域の人々の憩いの場として親しまれています。

いじらいけ
2 伊自良ため池

【所　在】山県市長滝
【築　造】昭和43年（1968年）
【管理者】山県市

舟伏山を流域とする、昭和43年に築造された水量54万tを誇る県内有数のため池であり、農業用のみならず、古くから防火用水としても利用されるなど、地域にとってなくてはならないため池です。

周辺は豊富な自然環境を有し、四季折々の魅力にあふれ、特に冬はワカサギ釣りで賑わうほか「恋人の聖地」としても知られるなど、憩いの場所としても一役を担っています。

ひしのがわようすい
3 菱野川用水

【所　在】瑞穂市・安八町
【築　造】万延元年（1860年）
【管理者】菱野川用水土地改良区

菱野川用水の起源は、江戸時代に揖斐川の洪水で堤防が決壊し、薮川（現・根尾川）に樋管を設け取水したことに始まります。大正時代には河川改修に伴い樋管の位置が上流に移され、昭和時代には根尾川の河床低下により取水が困難となったため、河川床止兼取水堰堤を設置するなどの経緯を経て現在の姿となっています。

近年においても水路を守るための様々な改修がなされ、地域の農地に用水を供給し続けています。

ちゅうのうようすい
4 中濃用水

【所　在】岐阜市・関市・美濃市・山県市
【築　造】昭和33年（1958年）
【管理者】山県用水土地改良区、中濃用水土地改良区連合

中濃用水は、鎌倉時代の初期に梶原平三景時が開削したと伝えられ、当時は流量の少ない武儀川から、松丸太や蛇かごを用いて取水していたと記録されています。

現在は、武儀川を水源とする山県用水と千疋用水、長良川から取水する池尻用水などを統合し中濃用水と呼んでおり、長良川中流部右岸一帯の農地を潤しています。

はしまようすい
5 羽島用水

【所　在】岐阜市、羽島市、各務原市、岐南町、笠松町
【築　造】昭和7年（1932年）
【管理者】羽島用水土地改良区

徳川家康は、犬山から木曽川河口にいたる約50kmの巨大な堤防、通称「御囲堤（おかこいづつみ）」を建設しました。これにより美濃側（木曽川の右岸側）は、300年に渡り洪水に苦しむことになりました。確固たる水源がなかった羽島用水地域が、木曽川に水源を求めるようになったのは大正時代に入ってからであり、御囲堤の呪縛から解放されたのは、犬山頭首工が建設された昭和30年代に入ってからでした。

多年にわたる水不足も解消されるとともに、現在は暗渠化され、本流からの清流を運び続けています。

※上部利用状況

西濃圏域

いけでらいけ
6 池寺池

【所　在】関ケ原町大字関ケ原
【築　造】不明（江戸時代以前）
【管理者】池寺池管理組合

池寺池の受益地は、関ケ原合戦の開戦地として史跡にも指定されている、梨の木川の両岸に開けた農地です。徳川幕府が各地で進めた新規開田事業によって、地区内を南流する梨の木川を堰き止めて築堤されたと伝えられています。

相当の歳月と人海戦術により築造された堤長約160m、堤高約10mのため池であり、築造後約350年を経過した昭和初期には、抜本的な改良工事がなされて、今もなお地域の農地を潤しています。

つづらいけ
7 十九女池

【所　在】関ケ原町大字関ケ原
【築　造】不明（江戸時代以前）
【管理者】十九女池沖管理組合

十九女池は関ケ原ICの北東にあり、受益地内には関ケ原合戦で活躍した猛将本田忠勝の陣跡があります。

この池には、大蛇の化身であるお姫様が、横笛を吹きながら若者が居る家を探しては、お椀を貸してもらっていたという伝説「龍女伝説」が残っています。
絶滅危惧種のヒメコウホネの自生地でもあり、紅葉や野鳥なども見ることができる憩いの場となっています。

あすかがわようすい
8 飛鳥川用水

【所　在】揖斐川町北方
【築　造】大正9年（1920年）
【管理者】飛鳥川用水管理委員会

江戸時代末の文化5年（1808）に着手したと伝えられていますが、岩盤をくり抜いた水路トンネルは漏水が激しく、用が果たせなかったと言われています。その後、大正時代になってからようやく難関のトンネル工事が完成し、現在はトンネルも新しくなり、約200年にもおよぶトンネル工事との闘いは終焉しています。このトンネルを流れる清流は今なお農地を潤し続けています。

たにぐみいけ
9 谷汲池

【所　在】揖斐川町谷汲徳積
【築　造】大正4年（1915年）
【管理者】大正新田水利組合

谷汲池は大正4年に構築されましたが、当時はため池は満水せず、通水の3分の2が漏水となり、少ない水を奪い合うこともありました。

その後も地元で改修を行ってきましたが、一向に改善されなかったことから、昭和6年に当時の農林大臣に陳情書を提出するなどした結果、今では受益農地の重要な用水源として利用することが可能となりました。

華厳寺の門前エリアと併せて、春の新緑、秋の紅葉など四季折々の美しい景観が楽しむことができ、多くの観光客が訪れています。

かいばらたなだ
10 貝原棚田

【所　在】揖斐川町春日字美束
【築　造】約300年
【管理者】貝原棚田保存会

ぎふの棚田21選

約300年前の江戸中期に開田されたとの記録があり、西濃地域で唯一「ぎふの棚田21選」に選定されました。
山あいの中、大小さまざまな田が斜面に沿って続き美しい景観を引き出しているほか、棚田中央にはフジツルが巻き付いた樹齢約700年のスギの大木が鎮座し、訪れる人々を棚田と共に楽しませています。

また、水稲だけでなく薬草なども栽培されており、地域の特産品となっています。

まきたがわようすい
11 牧田川用水

【所　在】大垣市・養老町・垂井町
【築　造】昭和9年（1934年）
【管理者】牧田川用水土地改良区

鎌倉時代、牧田川には今の様な堤防はありませんでした。農地が高い土地にあることに加え、川の水が少なく水の取り入れに大変な苦労をしていたことから、一部地域では、河底の下に丸太を四角に組んだトンネルを築き、すき間から落ちる伏流水を集めて用水路に流す「笊桶（さらひ）」という工法が考案されていました。

現在は、昭和9年に完成した頭首工により安定した取水が可能となり、地元では広瀬ダムと呼ばれ親しまれています。

せんごく
12 戦国ロード

【所　在】関ケ原町・大垣市
【築　造】平成15年～29年（2003～2017年）
【管理者】関ケ原町・大垣市

起点を滋賀県境となる関ケ原町の国道365号線、終点を海津市の木曽三川公園とする延長約43kmの路線のうち、関ケ原町を縦断する約3kmが「戦国ロード」の名称で親しまれています。

天下分け目の戦いが繰り広げられた地関ケ原を起点に、雄大な木曽三川の流れと輪中地帯独特の水郷景観が一望できる海津まで、たくさんの魅力が詰まったこの街道は、地域で収穫された農産物の岐阜、名古屋、関西、北陸の各方面に向けた効率的な輸送を可能としました。

中濃圏域

なかいけ
13 中池

【所　在】関市塔ノ洞
【築　造】養老3年（719年）
【管理者】関市

中池は、奈良時代の高僧泰澄によって構築されたという伝承を持つ岐阜県最古のかんがい用ため池です。

豊富な水辺と緑豊かな自然林など、農業用ため池周辺の空間を活用し、市民の憩いの場所「カワセミの里」として、自然とのふれあい場所となっているほか、池干しによる水質浄化や外来種駆除にも取り組んでおり、近年は絶滅危惧種「ウシモツゴ」も確認されています。

くらちとうしゅこう
14 倉知頭首工

【所　在】関市倉知
【築　造】寛永10年（1633年）
【管理者】関市倉知用水土地改良区

倉知頭首工は江戸時代初期に、村有林から切り出した松丸太で馬を作り、これに石を積み固定して堰き止める「井の子作り」で築造されました。

取水の高さによって下流の関村に湛水が及ぶため、水位の協議は容易ではなかったことから、水位を決める定石が置かれ取水が行われました。

昭和45年に行われた津保川の河川改修によりコンクリート堰堤に改良され、現在は近代的な姿になっています。

つるぎようすい
15 剣用水

【所　在】郡上市大和町、白鳥町
【築　造】寛文4年（1664年）
【管理者】剣区

剣用水の成り立ちは日本最古の女帝とされている推古天皇の時代と言われています。江戸時代後期の文政元年（1818）大島村（現郡上市白鳥町）の新田開発に際しては、元々水が十分ではなかった剣村（現郡上市大和町）の人たちが計画に異議を申し立て、時の藩が仲裁にも加わりましたが、水を巡る論争が解決されなかったと言われています。昭和に入ってからは、黒古川から長良川に取水口が移転され、現在は論争もなく、清流を運び続けています。

なるようすい
16 那留用水

【所　在】郡上市白鳥町
【築　造】江戸時代
【管理者】那留用水組合

那留用水は、大正六年ころ、那留ケ野の竹下喜一郎たちが計画したものであり、牛道川から那留ケ野までの導水には、サイフォンの原理が利用されています。

約700メートルあるサイフォンは、造成当時としては画期的な技術であったため、途中で水が噴き出すなど失敗も多かったとされています。

およそ100年経った現在も運ばれる続ける用水は、那留ケ野まで水を上げることが可能となった当時の村の人々が上げた歓喜を後世に伝えてくれます。

しまたにようすい
17 島谷用水

【所　在】郡上市八幡町
【築　造】江戸時代（寛文年間）
【管理者】郡上市

郡上八幡の城下には近世期から川から取水する水路網が整備されており、寛文年間の絵図にも記されています。

本用水は農地を潤すのみならず、夏になればスイカが冷やされたり、鮎の友釣りに使うオトリ鮎を籠に入れるなど、人々の生活に密着しています。

また、水路沿いに「いがわ小径（こみち）」と称する散策道が整備されており、せせらぎを聞きながらゆったりと散策することができます。

しょうがほらたなだ
18 正ヶ洞棚田

【所　在】郡上市白鳥町前谷
【築　造】戦国時代～江戸時代
【管理者】前谷棚田を守る会

日本の棚田百選
ぎふの棚田21選

正ヶ洞棚田は、江戸時代に大半が作られた、殆どが石積みの棚田です。

西暦717年、泰澄大師によって開山された白山への登山道「美濃禅定道」に寄り添うように開墾された棚田であり、戦国時代から現代まで近世の歩みを見続けています。

長良川水系の清冽な水源により良質な作物を産出するとともに、その景観は農村の原風景を醸し出し、訪れる人々の心を和ませています。

ろくのり　たなだ　さんがむら・はたがたに
19 六ノ里の棚田（三ケ村・畑ヶ谷棚田）

【所　在】郡上市白鳥町六ノ里
【築　造】江戸時代
【管理者】三ヶ村棚田を守る会、畑ヶ谷棚田を守る会

ぎふの棚田21選

この地域は昔「栃洞」、「橋詰」、「畑ヶ谷」、「藤林」、「高久」、「折」の6つの里からなっていたため六ノ里と呼ばれており、この中に「三ケ村棚田」と「畑ヶ谷棚田」の2つの棚田があります。

三ケ村棚田は石積みが特徴的で、江戸時代に地域で苦労して作られたものです。六ノ里全体の豊かな自然と山里の風景を将来へ守り育てたいという想いから、地元農家や体験民宿の会などで立ち上げられた「六ノ里棚田にじいろプロジェクト」でイラスト田んぼを作っており、夏には訪れる人の目を楽しませています。

まつのいけ
20 松野池

【所　在】瑞浪市日吉町
【築　造】昭和36年（1961年）
【管理者】可児川防災等ため池組合、可児土地改良区

松野池は、可児川流域の水害対策のため、全国初の防災ため池事業として実施され、昭和36年に完成しました。

幅が狭く曲がりくねった道路を抜けた先に広がる広大な湖面は、周辺山々の四季の姿を映すなど美しい景観を形成しており、下流農地の防災対策のみならず、地域住民の潤いと安らぎの場となっています。

はちまんいけ
21 八幡池

【所　在】坂祝町深萱
【築　造】不明
【管理者】坂祝町

ため池百選

近傍に1713年建立の八幡神社があり、八幡池も同時期に築造されたと考えられています。その後、明治24年の濃尾大震災で堤防が崩れたため大改修が行われ、昭和11年にも改修が行われました。

池にはコイ、フナ、ウナギなどが、周辺にはツリガネニンジン、ショウジョウバカマなどの植物が生息する自然豊かなため池であり、近隣の遊歩道からは素晴らしい池の風景を眺めることができます。

かみだいだ　たなだ
22 上代田棚田

【所　在】八百津町八百津北山
【築　造】不明
【管理者】北山集落

日本の棚田百選
ぎふの棚田21選

上代田棚田の築造時期は不明ですがその歴史は古く、杉原千畝の母親の実家がある地としても知られています。

花崗岩帯にあることから、その岩石を切り出し丹念に積み上げられ、幾枚もの棚田が作られています。周囲をスギ林の山に囲まれた小さな盆地にあり、集落が棚田を取り囲むように配置された景観は、のどかな山里を形成しています。

春は法面に咲く芝桜のピンクが田んぼの水面に映り、秋には稲の黄金色と真っ赤な彼岸花が楽しめます。

うわのようすい
23 上野用水

【所　在】関市下之保
【築　造】天保13年（1842年）～弘化2年（1845年）
【管理者】関市

この用水路は、上野地区に住んでいた森田権右衛門が、田んぼが少なく苦しい生活をしている人々を救うために築造したとされています。

江戸時代末期の天保十三年（1842）に始まった工事は完成前に川の中の堰が洪水で押し流されたり、堅い岩が作業を妨げるなど、困難の連続でしたが、権右衛門の強い意志により成し遂げられました。

この功績は、水の心配がなく農業が出来るようになった人々により石碑に刻まれ、後世に伝えられています。

まなだ　いけ
24 真名田ため池

【所　在】御嵩町中
【築　造】昭和28年
【管理者】可児川防災等ため池組合

可児川流域の洪水調整やかんがい用の水源として建設されたため池ですが、当時は重機がなく、発破で崩し人力によるトロッコでの運搬が主力でした。そのため、延べ18,000人にものぼる作業員がこの工事に従事し、その大部分が地元住民であったと言われています。

ため池完成後には「真名田親水公園」も整備され、野鳥観察やスポーツなど地域住民の憩いの場、交流の場として利用されています。

あかなぎたなだ
25 赤薙棚田

【所　在】八百津町八百津赤薙
【築　造】不明
【管理者】個人

ぎふの棚田21選

赤薙棚田の築造時期は不明ですが、その歴史は古く、集落の下に本棚田、集落の上に上棚田が形成され、各戸が自給程度の米や野菜を収穫しています。

石積みの棚田で規模は小さいながらも、山と集落と棚田が美しい谷あいの農村の原風景を見ることができます。

現在は棚田オーナー制度による受け入れを行うなど、都市住民との交流を積極的に図っています。

26 やまびこロード

【所　在】郡上市大和町、白鳥町、高鷲町
【築　造】昭和47年度～平成6年度（1972～1994年）
【管理者】郡上市、岐阜県県土整備部

戦後の食糧確保のために開拓された畑地帯の野菜（高冷地野菜）の流通の安定化を図るため整備された農道です。

白鳥からひるがの高原まで、風光明媚な奥美濃の山間を縦貫しており、新緑、紅葉のほか田園地帯や農村など牧歌的な風景も楽しむことができ、地元では「やまびこロード」の愛称で親しまれています。

沿線にはスキー場やゴルフ場などレジャー施設があり、観光客にも多く利用されています。

田ケロー

東濃圏域

うわはらいちごういけ
27 上原1号池

【所　在】多治見市笠原町上原
【築　造】不明
【管理者】多治見市　他

この地域は、容易に農業用水を取水できる河川や渓流が少ないこと、また丘陵地における洞地の農地が各所に存在していることから、貴重な用水源として数多くのため池が築造されてきました。

上原1号池は、1920年頃築造され、地域の貴重な農業用水源として現在も大切に利用されており、池の周回道路からは四季折々の水辺の風景を楽しめるなど、憩いの場として地域住民に親しまれています。

じょうりんじぼうさい
28 定林寺防災ダム

【所　在】土岐市泉町定林寺
【築　造】昭和39年（1964年）
【管理者】土岐川防災ダム一部事務組合

土岐川及びその支流の流域には保水力の乏しい丘陵が多く、降雨時には急激な出水により河川が氾濫し、流域の農地等はたびたび洪水被害を受けていました。

そこで、流域農地の洪水被害防止を目的に、昭和26年より5箇所の防災ダムが築造されました。

定林寺防災ダムは、土岐川支流定林寺川にあるダムで、紅葉の季節には美しい景色で私たちの目を楽しませてくれます。また、近隣には土岐ペトログラフ巨石群も見られます。

さんごう・やまもとようすい
29 三郷・山本用水

【所　在】恵那市長島町正家
【築　造】江戸時代中期　明和7年（1771年）
【管理者】恵那市

山本用水は、江戸時代中期の明和7年から8年（1770～1771）に庄屋新三郎が計画し、岩村藩主に願い出たのが始まりと言われています。対岸の三郷用水は、山本用水より取水歴が古いことから取水口を上流に設け優先取水していましたが、両用水の間には、度々水を巡る激しい争いが起きていたため、文化11年（1814）に、阿木川の水を2対1に分水する協議が両用水で成立したと言われています。
現在も、阿木川左岸から三郷用水、右岸から山本用水が、それぞれの目的地に清流を運び続けています。

ますぶちようすい　つけちようすい
30 鱒渕用水（付知用水）

【所　在】中津川市付知町
【築　造】文政13年（1830年）
【管理者】中津川市

当時の付知村には、山々に小谷が少なく、その僅かな谷川も水量が乏しく開拓の余地がありながら長い間放置されていました。

付知村の庄屋であった田口忠左衛門慶郷は、文政10年（1827）用水開削の計画を実行し、およそ60メートル眼下を流れる付知川の水を、はるか上流から導き、山間峡谷、断崖絶壁の難所の用水路を完成させました。本用水は現在も地域の農地を潤し続けているほか、護山神社の境内には田口神社が建てられ、功績や用水の歴史を知ることができます。

つけちがわうがんようすい　えんとうぶんすい
31 付知川右岸用水（円筒分水）

【所　在】中津川市駒場
【築　造】昭和54年（1979年）
【管理者】中津川市西部土地改良区

中津川市の通称西山台地は、すぐ近くに木曽川があるにもかかわらず、水面は130メートル下にあったため、極度の乾燥地帯でした。

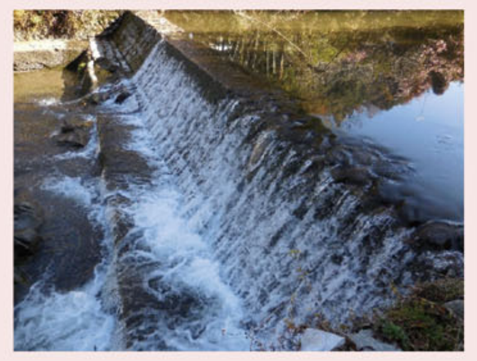
昭和の中期頃工事が開始され、付知川の清流を十数キロにわたり運ぶ水路が完成し、末端には苦労して得た水をできるだけ均等に分水するために、円筒分水工が設置されました。現在も均等に水を分水し、農地を潤しています。

なかひだようすい
32 中肥田用水

【所　在】土岐市肥田町上肥田
【築　造】不明
【管理者】中肥田用水組合

肥田川の西岸に広がる高台は、中肥田と呼ばれています。この地区は河川より高い位置にあるため、かんがい用水のすべてを地区内からの取水でまかなうことは不可能でした。このため当時の村人は、岩村領主と交渉し、対岸の上肥田地内に取水堰を作り、合わせてため池も築造したと伝えられています。

17世紀前半頃に作られた用水路やため池は、その後も災害の度に改修や補修が行われ、現在も中肥田の農地を潤し続けています。



まきどたなだ
33 牧戸棚田

【所　在】中津川市加子母字番田牧戸
【築　造】不明
【管理者】中津川市牧戸棚田保存会

ぎふの棚田21選

20戸程の住居が点在する典型的な中山間地であり、平家の落人が住み着き田畑を開拓したとされています。

この地には、平家一族で唯一生き残った娘が、金の茶釜にお金などを入れ山に穴を掘って隠したという「牧戸の山の金茶釜」の昔話が伝えられています。

現在も、のどかな山里の美しい棚田風景が広がっており、静かな農村の原風景を感じることができます。

だいえんじ　たなだ
34 大円寺棚田

【所　在】恵那市岩村町富田
【築　造】不明
【管理者】個人

ぎふの棚田21選

岩村町富田地区は平成元年に国土問題研究会から「農村景観日本一」の称号を受けた、美しい田園風景の広がる地域です。また、平成21年には「NPO法人農村景観日本一を守る会」が発足され、美しい景観を守る取り組みが行なわれています。

大円寺棚田は富田地区の奥に位置し美しい景観を形成しており、冬になると棚田からは、雪化粧した霊峰御嶽山の絶景がみられます。

とちくぼたなだ
35 栃久保棚田

【所　在】恵那市笠置町河合栃久保
【築　造】江戸時代中期～昭和初期
【管理者】恵那市栃久保棚田保存会

ぎふの棚田21選

栃久保棚田は、昔ながらの石積みが残る山間の小さな集落で、江戸時代中ころから築かれました。

狭く限られた地形のため、石垣と一体で造られた珍しい階段は、高低差のある田を上り下りするために利用されており、先人の高い技術力を感じることができます。

古き良き故郷を思わせる棚田と、眼下を流れる木曽川の景色は、訪れる人を魅了しています。

さざらきひがしたなだ・さざらぎにしたなだ
36 佐々良木東棚田・佐々良木西棚田

【所　在】恵那市三郷町佐々良木深瀬、佐々良木西
【築　造】不明
【管理者】佐々良木東棚田保全組合、個人

ぎふの棚田21選

鎌倉期に岩村城を本拠地とする地頭遠山氏の領地であった佐々良木では、山林を開拓したため非常に高い畦畔の水田が並ぶ佐々良木東棚田、斜面に大規模な水田が広がる雄大な佐々良木西棚田の、2つの棚田を見ることができます。

佐々良木東棚田の脇には茅葺きの家が残り、住民が中心となって茅葺き屋根の葺き替えを行うなど、地域ぐるみで景観を保全しており、昔の古き良き時代をしのぶことができます。

のいなか・のいひがしたなだ
37 野井中・野井東棚田

【所　在】恵那市三郷町野井
【築　造】不明
【管理者】個人

ぎふの棚田21選

野井中は城があったことを示す地名で、辺りを治めた野井城に由来しています。城址はありませんが、山の上にある野井城へ年貢を積んできた馬を降り歩いて行ったことから、「馬止場」の名が残っている野井中棚田（馬止場の棚田）では、昔の形そのままの景観を残し、古き良き時代の姿を見ることができます。

野井東棚田（北山棚田）は、当地域では数少ない石積みの棚田が残る棚田で、昔の景観をそのままに残しています。

それぞれの棚田が地域のウォーキングコースのビューポイントに選定され、訪れる人の目を楽しませています。

飛騨圏域

はぎわらちゅうおうようすい
38 萩原中央用水

【所　在】下呂市萩原町
【築　造】大正13年（1924年）
【管理者】萩原町土地改良区

明治時代、萩原町の川東地区は、渓流沿いに水田が点在していましたが、大正時代に新たに飛騨川から取水する萩原中央用水の建設を含む一大事業が実施されました。事業が完成した大正13年には、地域の水田面積が、当初の50ヘクタールからおよそ3倍に拡大し、地域経済に飛躍的発展をもたらしたと記録があります。

現在は、水路沿いに遊歩道が整備され、春は桜や芝桜などが目を楽しませ、夏は緑陰が涼感を誘うなど、ウォーキングコースとしても地域に親しまれています。

のがみたなだ
39 野上棚田

【所　在】下呂市萩原町野上
【築　造】不明
【管理者】上野上棚田保全会

ぎふの棚田21選

江戸時代（天明年間）に作られた2mを超える石積みで作られている棚田もあり、その規則的な配置が見事な展望となっています。

同地域の白王（はくおう）神社では、毎年4月の例祭に伊勢神楽の流れをくむ獅子神楽が伝えられ「野上獅子」として萩原町の無形民俗文化財に指定されており、棚田とともに歴史や文化を後世に受け継いでいます。

おがわたなだ
40 小川棚田

【所　在】下呂市小川
【築　造】不明
【管理者】下呂市小川高洞棚田保全会

ぎふの棚田21選

江戸時代後期（文政年代）に入植・開墾が始まり、明治時代に湯ヶ峰を源とする小川谷から引水する用水路が完成し稲作が始まりました。

棚田の石垣は、約10万年前に噴火したといわれる湯ヶ峰から流出した花こう岩などを使って作られているのが特徴です。棚田の間の水路や歩道が昔のまま残されており、懐かしい農村風景が形成されています。

のりまさたなだ
41 乗政棚田

【所　在】下呂市野尻、乗政、宮地、御厩野
【築　造】不明
【管理者】個人

ぎふの棚田21選

乗政地区を含む竹原地域では、大正時代に築かれた石積みから、集落全体に田畑と農家が階段状に並ぶ農村風景まで、さまざまな棚田がみられます。古くから伝わる文化も継承されているほか、乗政棚田の一部である「三ツ石棚田」では「下呂のマチュピチュ」と表現される景色がみられ、地域のあちこちで四季折々のすばらしい農村風景を楽しむことができます。

ふくらいたなだ
42 福来棚田

【所　在】下呂市金山町福来
【築　造】約300年前
【管理者】個人

ぎふの棚田21選

寛政6年（1794）開田の記録が残る歴史ある棚田で、逆松傘積（松傘を逆さにしたように積まれている）と呼ばれる石積を見ることができます。

殺傷した虫などを供養する「虫供養碑」や「田の神」「水神」も揃って棚田に鎮座しています。

また、棚田周辺を囲む鹿よけの石垣は「福来の鹿垣」と呼ばれ、電気柵ができる前から、猪や鹿などの獣害対策がとられているなど、昔からの技術が詰まった棚田となっています。

たきまちたなだ
43 滝町棚田

【所　在】高山市滝町
【築　造】昭和20～30年代
【管理者】滝町棚田保存会

ぎふの棚田21選

この地域は、鎌倉時代幕府の有力御家人の一家である和田氏が移り住んだ地と伝えられています。

滝町棚田は棚田米、寒干しダイコン、棚田ニンジンなどを産物とし、保全活動や農業体験教室等を通じ、失いつつある農村の食文化、伝統文化等を広く後世に伝承しています。

飛騨山脈乗鞍岳の麓にあり、天に向かって積み上がるような棚田の景観が訪れる人々を魅了しています。

だたなだ
44 ナカイ田棚田

【所　在】高山市久々野町小坊
【築　造】昭和53～56年（1978～1981年）
【管理者】個人

日本の棚田百選
ぎふの棚田21選

ナカイ田棚田は昭和後期に築造され、上流の砂防堰堤とともに土砂災害を未然に防ぐ役割も担っています。

この地域には、小坊橋下流の渦巻く流れに向かってお願いをすると、必要な椀や膳が自然に波の上に現れ、借りて使うことができたという昔話「釜淵」が語り継がれています。

一般国道41号線、JR東海高山本線からも見ることのできる、狭い谷あいに作られた飛騨川沿いの棚田であり、飛騨の山々に囲まれた静かな山里のたたずまいを見せてくれます。

こやなようすい
45 小屋名用水

【所　在】高山市久々野町小屋名
【築　造】万延元年（1860年）
【管理者】自治会小屋名区

江戸時代末期の安政2年（1855）豪農森久次は、益田川（現飛騨川）の水をかんがい用水として利用するための工事を始めました。全長6kmのうち、取り入れ口の延長約70m、高さ約2m、幅約1.7mの隧道（トンネル）をノミだけを頼りにすべて人力でくり抜かれていることから、困難を極めた工事であったと思われます。

現在、小屋名用水と呼ばれるその用水の一部は、先人達の偉大な遺産として高山市の文化財にも指定され、美しい風景の中に溶け込んでいます。

おぎまちようすい
46 荻町用水

【所　在】白川村荻町
【築　造】大正15年（1926年）
【管理者】荻町区

合掌造りの集落で知られる荻町地区を流れる荻町用水は、大正15年に大保川から取水する幹線水路として整備されました。

世界遺産に登録されているこの地区は、合掌造りと呼ばれる独特な家の造りを始めとした幻想的な風景とともに、その周囲に展開する用水、旧道、田畑や畦畔などが、山間部における自然的な農耕形態とあいまった独特の集落景観を保っています。

この荻町用水は農業用のみならず、防火用水として生活に欠かせない大切な水となり、世界遺産地区を粛々と支え続けています。

たかはらようすい
47 高原用水

【所　在】高山市上宝町・飛騨市神岡町
【築　造】昭和32年（1957年）
【管理者】高原土地改良区

岐阜県最北端に位置する用水であり、受益の高原郷は高原川より高い位置にあるため安定した取水ができませんでした。そのため、用水の整備に着手し、全長17kmのうち16kmを素掘りトンネルが占めるという、県下でも有数の長距離隧道（トンネル）が昭和32年に完成しました。

高原川から取水した用水は、今では、品質の高い米やハウス野菜の生産の礎となっています。また、消防用水や消流雪用水としても利用されており、地域の人々の大切な水として潤し続けています。

みやがわうがんようすい
48 宮川右岸用水

【所　在】高山市国府町・飛騨市古川町
【築　造】昭和33年（1958年）
【管理者】飛騨市

古川町の上気多や下気多地区では、かんがい用水などをわずかな山の出水に頼っていたため、全体的に水量が不足していました。

日照りが続いた時には、春の苗取りの苗を、桶で水を運び洗わなければならない時もありました。そこで系統的に整理された用水路が昭和33年に整備されました。

宮川右岸用水は清流を運び続け、古川盆地と呼ばれる平坦地を中心とした農地は、地域の穀倉地帯となっています。

※場所によっては危険な箇所もありますのでご注意ください。